

自然と人の文化

多治見市文化財保護センターだより

もくじ

- ・企画展「カミさまホトケさまお医者さま～医療と信仰～」・・・1・こけいざん森の家フェスティバル・・・3
- ・移動展「住吉古窯跡群出土遺物展」・・・2・根本民具整理作業中!・・・4
- ・中学生の職場体験・・・2・寄贈資料紹介～最近の寄贈品から・・・4
- ・平成28年度北小木のホタル生息数調査結果・・・3



企画展 カミさまホトケさまお医者さま

～医療と信仰～

展示期間：平成28年9月5日（月）～平成29年2月17日（金）

「病」はいつの世も人々の命を脅かす存在です。医学の発達していない時代において「病」は「病魔」という霊的な存在として捉えられていました。人々は呪術的な治療を施したり、神仏にすがったりと、あらゆる手を尽くして治療しました。そのような呪術や信仰は、少しずつ医学が進む中でも受け継がれ、今日まで残っています。多治見市にも、地藏やお薬師さんのよう



▲首切り地藏
(大原町普賢寺参道)

なくホトケ)さまや(カミ)さまの「病」にまつわる昔話や、今も行われている地域のお祭りなど民間信仰として受け継がれているものがたくさんあります。

医学は5～6世紀に大陸から日本列島へ伝来しました。以来、渡来人や遣隋使・遣唐使、僧侶などによって大陸の最新医学が日本にもたらされますが、その変革期の一つとして、幕末期が挙げられます。開国によって西洋化・近代化が進むにつれ医学も発達し、次第に医学知識が地方へ浸透していきます。当時、天然痘やコレラといった病気が流行して



▲陶歯資料の展示

いましたが、予防接種が推奨されるなど、生活の中での衛生への意識が広まります。特に天然痘は幕末期には東濃で予防接種が始まっており、当地域の近代医療の発展の中で注目すべき歴史だと思います。また、医学が発展する中で歯科医療も変化していきます。江戸時代の歯科医療の現場では木製の入れ歯が用いられていました。明治時代になると焼物による入れ歯＝「陶歯」の製造が始まり、多治見がその先駆けとなりました。このことは焼物作りを主産業とする当地域において、医療と関わる興味深いものです。

今回の企画展は、多治見市内に残る、今もなお受け継がれる信仰の形と、多治見・東濃地域における医療の歴史を紹介します。今のように高度な医療もない時代、人々はどのように「病」という災難を受け止め、どのように対処してきたのか。その時代その時代の様子や人々の心情を想像しながらご覧いただければと思います。

移動展「住吉古窯跡群出土遺物展」

平成 25 年 4 月から平成 26 年 5 月にかけて発掘調査された「住吉古窯跡群」の出土遺物展をバロー文化ホールで 6 月から 9 月まで行いました。

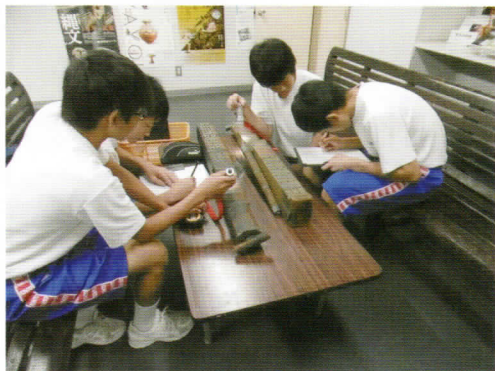
住吉古窯跡群からは平安時代から鎌倉時代に作られた 13 基の窯跡が発見され、2 万 5 千点を超す大量の陶器類が出土しました。出土した陶器類は、平安時代に焼かれた「灰釉陶器」と、鎌倉時代に焼かれた「山茶碗」が主で、碗と皿のほかに、鉢・瓶・壺などがありました。

中でも「住吉 16 号窯」と名付けられた平安時代の窯は、「緑釉陶器」という特別な陶器を焼成した「緑釉陶器の専用窯」であり、岐阜県内で例がなく全国的にも希少な窯跡です。これは多治見市の焼物作りの歴史の中で新たな発見となる、非常に有意義な成果です。この中から緑釉陶器を含む特徴的な出土品 26 点を展示し、多くの来場者に見ていただきました。

▼ 展示の様子 ▼



中学生の職場体験



▲ 民俗資料の整理作業

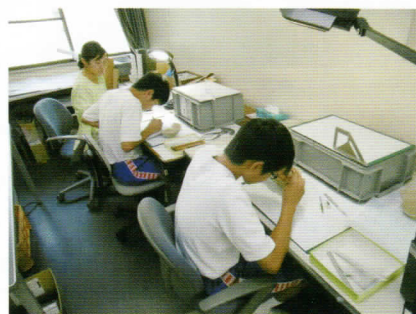
を主としており、生徒達はそれらを恐る恐る手で運び作業をしていました。2 日目は、市内の遺跡から出土した遺物を手に取って、復元作業と実測図の作成を行いました。二日間とも、普段は見たり触れることのできない昔の道具や出土遺物を扱う作業でしたが、生徒達は真剣に取り組んでくれました。

この体験を通して、文化財や歴史というものに対して関心を持ち、進路選択にも生かしてほしいと思います。

平成 28 年 8 月 24 日（水）・25 日（木）の二日間、陶都中学校 2 年生 4 名の職場体験を受け入れました。文化財保護センターで主に行っている活動について（1、指定文化財保護、2、埋蔵文化財調査、3、教育普及）の説明をしたあと、実際に文化財保護センターの仕事を体験してもらいました。1 日目は市民の皆さまからご寄付いただいた民俗資料の整理作業を行いました。資料名や大きさなどを計測し、それらを台帳に記入し、写真撮影をするという資料整理の一連の流れを体験してもらいました。また、9 月から始まる企画展示準備としてキャプション作りを行い、こけいざん森の家の移動展示の撤去作業も体験しました。こけいざん森の家の展示は、虎溪山地域の出土遺物を



▲ 出土遺物の復元作業

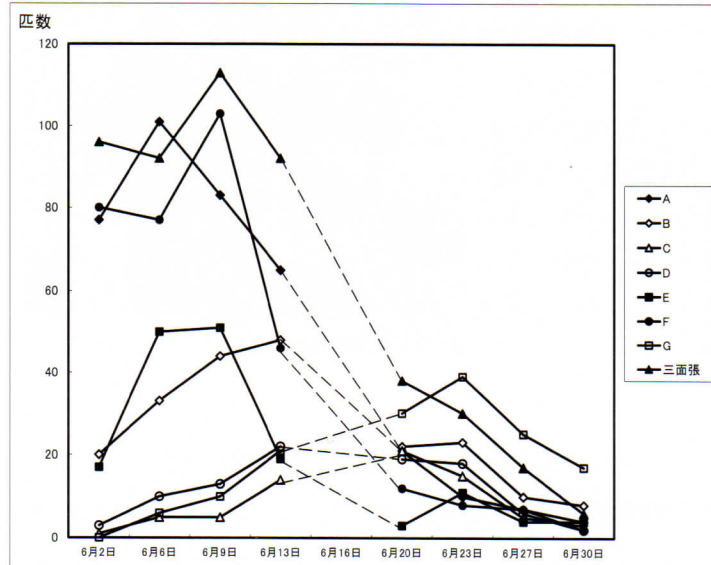


▲ 出土遺物の実測図作成

平成 28 年度 北小木のホタル生息数調査結果

平成 28 年度ゲンジボタルの地点別観測数

図1 ゲンジボタル生息数調査地点



A地点: 天王橋上流 B地点: 天王橋下流 C地点: 打越橋上流 D地点: 打越橋下流
E地点: 宮下橋上流 F地点: 宮下橋下流 G地点: 八管橋上流 三面張: 三面張改修地点

※6/16は雨のため中止。

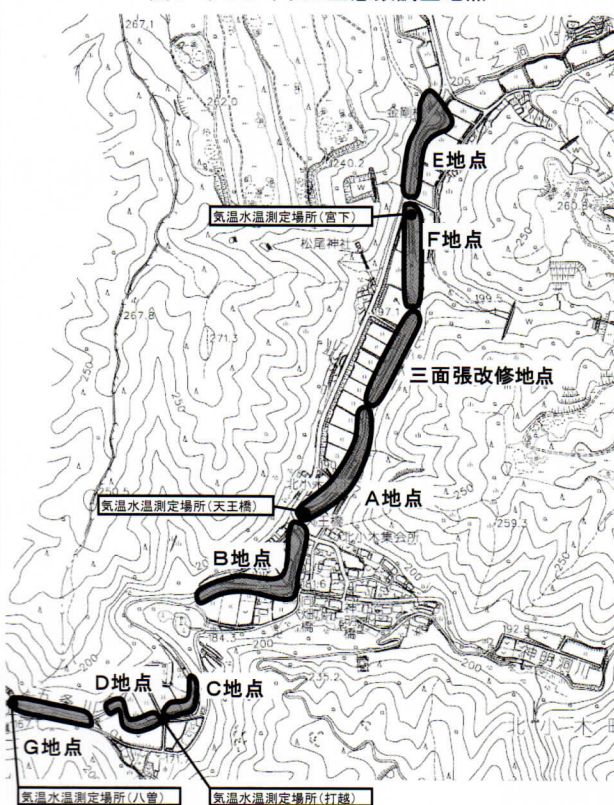
北小木町に毎年数多く飛び交う「北小木のホタル」は、多治見市天然記念物に指定されています。その発生状況について、今年も6月初めから7月半ばにかけて、ゲンジボタルは川、ヘイケボタルは水田と、それぞれの生息地で調査を行いました。

今年のゲンジボタルの生息数は去年と同じくらいで少ない年となりました。例年と比べると、特に天王橋から慈光寺裏のB地点は少ない傾向にありました。発生ピーク時期は川の上流(A、三面張、E、F地点)と下流(B～D、G地点)で異なりました。上流地点では調査初日からゲンジボタル数が多く、ピークは6月初旬でした。下流地点のピークは6月中旬から下旬となりました。

昨年行ったカワニナ調査では非常に多くのカワニナを確認できたため、今年のゲンジボタル数は多くなる可能性がありましたが、実際には増加しませんでした。しかしゲンジボタルは3年ごとに増減を繰り返しており、大発生した平成26年の2年後である今年のゲンジボタル数は周期通りであり、来年はゲンジボタルが多くなることが期待されます。

ヘイケボタルについては昨年とほとんど同じ生息数でした。今年は調査地点ではない水が流れている山際で12匹確認しました。北小木町では田の水を1度切って乾田にする方法で稲作しています。この方法により田が乾く期間があると、ヘイケボタルは生息するのが難しいようで、田以外の水のあるところに生息場所を移しているようです。

ボランティアに参加してくださった方々、北小木町や関係者の方々に、この場を借りて深くお礼申し上げます。

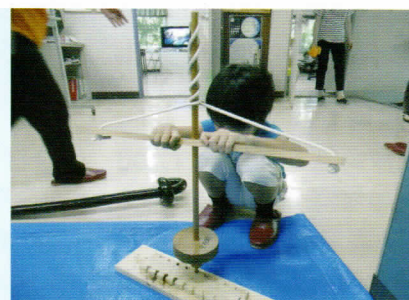


こけいざん森の家フェスティバル

8月7日(日)、弁天町にあるこけいざん森の家で夏休みの子供向けイベント「こけいざん森の家フェスティバル」が行われました。文化財保護センターも展示と体験コーナーを設け、さらに今年は虎溪山一号古墳の見学も行いました。

展示は主に虎溪山一帯の古墳や古窯跡の出土遺物を並べ、虎溪山地域の歴史を学べるものとしました(8月23日まで展示)。また、子供たちにはマイギリを使った火起こしを体験してもらいました。なかなか火を起こすのは難しく、子供たちは昔の暮らしの大変さを実感していました。なかには何度も挑戦し火種を起こすことのできた子もあり、楽しく体験してもらえたと思います。

そしてこの日は、普段は見ることのできない虎溪山一号古墳の見学説明会も行いました。実際に古墳の玄室(遺体を安置する部屋)に入って、担当職員が古墳や出土遺物の解説をしました。見学に参加した人は興味深げに耳を傾け、熱心に質問をしていました。



▲ 火起こし体験の様子



▲ 虎溪山一号古墳内見学

根本民具整理作業中！

平成 27 年に根本地区であつめられた民具約 200 点のご寄贈がありました。柱時計や羽釜、徳利、炬燵、レコードプレーヤーなど、少し前まで生活用品として活躍していたものや、農機具などの民具資料が中心です。今年度からは月 1 回、



▲ 羽釜としゃもじ

根本愛郷会・根本の歴史を語る会のみなさんにお手伝いいただいて、資料の計測や、写真撮影、使用方法や制作年代などの台帳記入をおこなっています。根本の方々が昔実際に家で使っていたという資料も多くあり、使い方や思い出話をしながら作業を進めています。



▲ 整理作業の様子

寄贈資料紹介～最近の寄贈資料から

文化財保護センターでは市民の皆様から様々な民俗資料をご寄贈いただいています。その中から最近ご寄贈いただいた資料を紹介します。

竜吐水（りゅうどすい） 2点



▲ 竜吐水（左：江戸時代製、右：明治 23 年製）



▲ 使用している様子

江戸時代にオランダから伝えられたという火消し器具で、明治時代まで使われていました。竜が水を吐く様に似ていることから「竜吐水」または「生竜水」などと呼ばれています。器具の上部に付いているポンプを押すことで下部から水を吸い上げ、水鉄砲のように水を飛ばし消火します。寄贈資料の竜吐水は「江戸浅草竜吐水師」の焼き印の押されたものと、「名古屋古渡消防機械製造」「明治二十三年」と書かれたものです。この竜吐水は多治見で実際に使用されていたものではありませんが、明治時代に旧多治見村では私設消防組が組織され、同様の消火器具を購入したという記録も残っています。

この他にもたくさんの貴重な資料を寄贈していただいています。ここでは紹介できませんが、ご寄贈いただいた皆様に感謝申し上げます。

〈利用案内〉

開館時間：9:00 ～ 17:00 休館日：土・日・祝日、年末年始
入場無料

〈交通案内〉

タクシー：多治見駅から約 20 分

バス：東鉄バス「美濃焼卸団地」下車 徒歩 5 分

自然と人の文化

No.48 2016.10

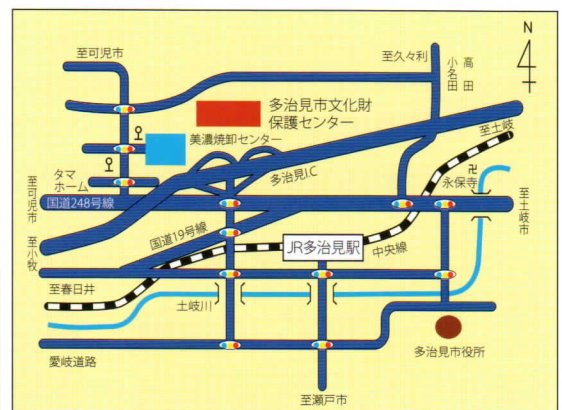
編集／発行 多治見市文化財保護センター

〒507-0071

岐阜県多治見市旭ヶ丘10-6-26

TEL(0572)25-8633 FAX(0572)24-5033

URL <http://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/>



発行部数：1300 部（税抜 24,050 円）

この冊子は環境に配慮した紙・インクを使用しています。